

## 早期トンネル被覆ピーマンで所得アップ!! ピーマン栽培の新たな挑戦

大船渡農業改良普及センター 岩淵 久代 メモ

### ○大船渡地域のピーマン栽培

大船渡地域ではいちごや玉ねぎにあわせてピーマン栽培が盛んに行われています。作型としてはハウス、露地があり、生産者のほとんどが露地栽培です。しかし、数年前から通常の露地定植よりは早い5月上旬に定植を行い、定植後ビニールで被覆す



研修会の様子

るトンネル早熟栽培が普及してきています。

### ○収穫期の延長を目指して「研修会の開催」

今年度は、沿岸地域の温暖な気候を活かして収穫期間を延長し、所得に結びつけることを目的に、定植時期を通常より前進化させた4月下旬定植の実証を行っています。

この実証圃を設置している大船渡市日頃市地区において、7月12日に現地研修会を開催しました。研修会では、トンネルピーマンの生育状況を説明した後、生産者相互の情報交換や今後のピーマンの管理についてまで話題が及び、現地でピーマンをみながらの話にみなトンネル栽培のメリットの実



定植直後のピーマン

しかしながら、この4月下旬定植では新たな課題も浮き彫りになりました。一つは春先の天候が不安定なため、トンネル被覆だけでは保温が足りない日があり、低温による黒変果が発生したことです。二つめは分枝数は多いのですが、初期の低温のため節間が短く中が混み易くなり灰色かび病対策が通常より多く必要なこと。三つめは温か

感を得たようです。また、自分のピーマンの生育と比べることで今後の管理の参考にもなったようです。トンネルピーマンを行っていない生産者は、たわわに実ったピーマンをみてその生育の早さにも驚いていました。

4月下旬定植のピーマンは、春先の低温のため若干生育が悪く通常の5月上旬定植や露地定植のものと同草丈は、ほぼ同じ生育となつていますが、分枝数は多く収穫時期は確実に早くなつているので今後の収穫量調査の結果が楽しみなところですよ。

### ○新たな課題

いマルチの中にもぐりこもグララなどの鳥獣害の発生です。

こうした新たな課題が浮き彫りになったことで、必ずしも早く定植すればよい結果がでるというわけにはありませんが、今後3人の実証圃の結果とあわせて、生産者の皆さんと検討していくことを考えています。

### ○これからの活動

大船渡普及センターではこの実証圃での研修会をきっかけに、今後も大船渡地域のピーマン生産農家の所得があがるように、いろいろなアイデア、情報を提供しながら生産者相互に検討していけるよう支援していく予定です。



トンネル被覆